

## 平成 20 年度 廃棄物資源循環学会 研究討論会

平成 20 年度	
テーマ	「循環型共生社会のための廃棄物管理システムの広域化」
内容	廃棄物管理システムの構築と維持管理は、一般廃棄物については市町村が、産業廃棄物については排出事業者の責務においてなされている。しかし、個々の市町村、個々の排出事業者が廃棄物管理システムを構築するよりも、広域的な視点で一般廃棄物と産業廃棄物も併せた廃棄物管理システムを構築する方が、資源保全や環境保全の効果を発揮できると期待される。そこで、そのような廃棄物管理システムのメリット、デメリット、構築するための解決すべき課題、計画策定の手順等について、食品廃棄物を対象とした具体的事例を紹介しながら、計画論の立場で議論する。
パネリスト等	挨拶：古市徹（北海道大学大学院工学研究科教授） 代わり幹事長 ●西川光善 話題提供 (1)一般廃棄物と産業廃棄物を併せた食品廃棄物管理システム構築の事例市町村の立場 ●堀江主幹（京都府南丹市） (2)一般廃棄物と産業廃棄物を併せた食品廃棄物管理システム構築の事例 産業廃棄物処理業の立場●中新田氏（㈱市川環境エンジニアリング） (3)一般廃棄物と産業廃棄物との合併処理の課題と展望 都道府県の立場 ●川嶋主幹（北海道） パネルディスカッション コンサルタントの立場 ●西川 幹事長 司会： ●谷川昇（北海道大学大学院工学研究科）

#### 4. 「循環型共生社会のための廃棄物管理システムの広域化」

廃棄物計画部会では、一般廃棄物と産業廃棄物の廃棄物管理システムを個別に構築するより、広域的な視点に立ってそれらを併せたシステムを構築する方が資源の保全や環境保全の効果が発揮されるという考えのもと、食品廃棄物処理の具体的事例から「循環型共生社会のための廃棄物管理システムの広域化」について討論した。

冒頭、廃棄物計画部会幹事長の西川氏（㈱環境技研コンサルタント）より、これまでの討論会の内容、パネラー、討論会で議論する内容が説明された。

話題提供では、京都府南丹市の堀江氏より南丹市のバイオマス処理の現状、低未利用バイオマス活用に向けた検討、そしてメタン発酵処理施設の事業化に向けた課題等が紹介された。㈱市川エンジニアリングの中新田氏からは、バイオエナジー株式会社事業（東京都スーパーエコタウン事業）の概要が紹介され、事業の特徴、課題および問題解決策等の話があった。さらに、北海道滝川市の橋本氏からは、北海道中北空知地域にある3つのバイオガス化プラントの稼働状況と課題について、法制度上、コスト面、地域、技術面、環境面の5つの視点から話があった。

パネルディスカッションでは、北海道大学の谷口氏がコーディネータとなり、①広域的な視点で廃棄物管理システムの構築を目指したか、②メリット、デメリットは事前に予測したか、③広域的な視点でのシステム構築の課題は何か、④どのような条件であれば実現が可能か、⑤今やるべきことは何か、という質問を投げかけ、活発な討論が行われた。会場からは、好意的な意見や質問が出され、積極的な意見交換の後、会を終了した。

（国際航業㈱ 井戸将博）